

# 学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2023年	
受賞タイトル	奨励賞	
区分	I. 商業ディスプレイデザイン	
フリガナ	フジワラ ショウゴ	
制作者名	藤原 匠吾	
フリガナ	タマビジュツダイガク	
卒業時の大学 学部・学科	多摩美術大学環境デザイン学科	
フリガナ	ハシモト ジュン	職名
推薦者名	橋本 潤	准教授
フリガナ	スナップショット	
作品名	SNAPSHOT	
概要	 <p>snapshotと題し、新たな形態での写真展 × 空間構成を試みた。 制作は写真本来の仕組みや色分解を再確認し、写真はシアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの四つの色から構成されている情報にすぎないといった認識から始まった。その4色をレイヤーに分割し、人の手によって新たに再構築する事は可能か模索した。</p>	

制作者名	藤原 匠吾
作品名	snapshot

### 【コンセプト解説】

snapshotと題し、新たな形態での写真展×空間構成を試みた。

制作は写真本来の仕組みや色分解を再確認し、写真はシアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの四つの色から構成されている情報にすぎないといった認識から始まった。その4色をレイヤーに分割し、人の手によって新たに再構築する事は可能か模索した。

方法として透明の塩ビシートに、透過性とcmykの4色がある油性マッキーに一つ一つ点をのせていった。寄って見ると、点の大きさと粗密によってその色がその箇所ですでにどれくらい使われているかがよく認知できる。朝日や日中、窓越しから撮られた人々はシアンの分量が多く、夕日や暖色で照らされた被写体はマゼンタとイエローの配分が多くなるため、点が大きくなる。これらが所謂写真の色味だ。1人ごとに4枚のレイヤーと、背景の空間レイヤーを用いることで、印刷以外の方法で写像として空間に浮き出させることを試みた。透明性を出すことで前面からも、背面からも写真を認知することが可能となり、今まで一方向から見ていた一つの写真や、写真展とは違い、移動する事で新たな色味へと顔を覗かせる形式の展示になった。

写真は昨年9月にイタリアに行き、ローマ、フィレンツェ、ヴェネチア、ミラノの遠方の地でカメラに収めた私の記憶に強く残った10人と1匹。写真と、撮影した瞬間の印象を頼りに身長を思い起こし、おおよその等身大サイズで作りあげた。ピクセル数を上げ、画像を意図的に粗くさせ、人の顔が判別出来るか出来ないかの状態にした。私でさえこの人々の顔を鮮明に思い出すことは、元の写真を見ない限り分からない。そのくらいの曖昧さが記憶であり、それを写真に反映し、作品に昇華させた。

